

# 肺結核患者ノ血液像竝ニ血清凝集反應ニ及ボスA〓接種ノ影響ニ就テ

大阪市立刀根山療養所(所長太繩博士)

谷 口 修 一

## 目次

- 一、緒論
- 二、實驗方法

- 三、實驗成績
- 四、結論

## 一、緒論

肺結核ノ輕症ニシテ進行緩慢ナルモノ若クハ榮養障礙少ナキモノニ在テハ血液「ヘモグロビン」量モ、有形成分ノ比例モ多クハ常人ト異ナラズトセラル。然レドモ重症ニテハ、此等成分ノ著シキ變化アルヲ常トシ、殊ニ初期ニシテ、之レアル者ハ惡性進行型ナルコト多キガ故ニ之ガ檢討ノ結果ヲ豫後ノ推定ニ資セントシ、或ハ「ツバルクリン」療法若クハ所謂蛋白刺戟療法、又ハフリードマン氏「ワクチン」療法ノ效果ヲ判斷スルノ料トナサントスルニ至レリ。

又結核患者ノ血清特殊凝集素ノ形成消長ニ就テモ、アーロン、クルモン氏等ノ古キ研究ヨリ最近ニ至ルマデ諸多ノ研究アリ、此凝集素ノ發現トソノ消長トガ果シテ、コホ氏ノ考ヘタルガ如キ結核ノ免疫若クハ經過豫後等ノ判定ニ幾何ノ關係アルヤヲ知ラズト雖モ苟モ結核免疫ヲ研究スル者之ガ檢討ヲナシテ這般ノ知識ニ若干ノ補遺ヲナサント欲スルハ敢テ徒事ナラズト信ズ。況ンヤ特殊療法ヲ施シテ、其患者ノ血液像變化ノ推移ト凝集素形成ノ消長トヲ相比較シテ檢索シ其相互關係如何ヲ窺知セントスルノ實驗ハ未ダ之レアラズ、蓋シ有馬、青山、太繩三氏ノ創製セルA〓ヲ除キテハ眞平ノ意義ニ於ケル結核特殊療法ナルモノハ未ダ曾テ存セズ、前掲ノ檢索ヲナスニ由ナカリシモノナリ。茲ニ於テ余ハ吾ガ

刃根山療養所ニ於テA Oヲ用ヒテ治療セラル、患者ニ就キテ其臨牀的一般經過ヲ觀察スルト同時ニA O接種ノ前後ニ於ケル血液像ノ變化及ビ血清凝集素形成状態ヲ檢シテ其一端ヲ報告セントス。尙本實驗ハ大正十四年第三回日本結核病學會總會ニ於テ其結果ヲ概報セリ。

## 二、實驗方法

- 一、「A O」接種前ニ於ケル凝集反應及ビ血液像ニ就テ。
- 二、「A O」第一回接種後一週ニ於ケル凝集反應及ビ血液像ニ就テ。
- 三、「A O」第二回接種後一週ニ於ケル凝集反應及ビ血液像ニ就テ。
- 四、「A O」ヲ既ニ數回接種セル患者ノ最終接種ヨリ一ケ月及ビ一ケ年半ニ於ケル所見竝ニ最終接種ヨリ一ケ月半ニ於テ

新ニ一回接種セシ後一週ニ於ケル凝集反應及ビ血液像ニ就テ。

患者分類ハ大體ニ於テ、ツルバン氏ノ式ニ從ヒ第一期ヨリ第三期ニ分類シ、採血時刻ハ午後二時ヨリ四時迄ノ間ニ於テシ、特ニ當日ハ安靜ヲ命ジタリ。採血方法トシテハ、指頭及ビ肘靜脈ヨリ行ヒ、凝集反應ハ、普通法ニ準ジ、血清ハ倍數稀釋法ニヨリテ行ヘリ。凝集元ハ「アルカリ、エーター、アルコホル」ヲ以テ脫脂シタル結核菌體一〇坵中四〇坵ヲ含ムモノヲ用ヒ、稀釋セル血清ト此凝集元ト等量ヲ用ヒテ一〇坵トナシ溫室ニ十二時間置キ後暫時冷所ニ靜置シテ觀察セリ。觀察標準ハ菌塊ヲ作り速ニ沈澱スルモノヲ(卅)、菌塊小ニシテ沈澱緩慢ナルカ或ハ微細ノ顆粒ヲナスノミヲ(十)、判定ニ難キモノヲ(十二)、陰性ヲ(一)トセリ。

次ニ白血球算定方法トシテハトーマー、ツァイス氏ノ血球計算器ヲ用ヒ、血稀薄液トシテ、チルク氏液ヲ以テ二十倍ニ稀薄ナシテ一立方糎中ノ數ヲ算定セリ。血液塗抹標本ノ染色ハ、「アルコホル」及ビ「エーテル」等分液中ニテ固定シ、次デギムザー氏染色液中ニ二十分間染色シ後水洗乾燥シテ、以テ檢鏡シ其ノ百分比ヲ以テナシタリ。

### 三、實驗成績

凝集反應ニ就テ

「A〇」接種前ニ於ケル検査成績ニ見ルニ肺結核患者ハ病期ニ關係無ク、其一部分ニ於テハ、最初ヨリ一定度ノ凝集反應ヲ示スモノアリタリ。サレド余ハ斯クノ如キ、凝集價ヲ有スル血清及ビ從前ヨリ受ケ來タリタル治療處置ノ判明セザル者ハ除去シテ全ク凝集價ヲ呈セザル患者ノミヲ以テ、本實驗ニ使用シタリ。サレド本療養所ノ性質上第一期患者ノ少ナキヲ遺憾トス。

扱テ第一回「A〇」接種後一週ニ於ケル實驗成績ヲ見ルニ、微弱タリトハ云ヘ、十倍乃至二十倍ニ於テ凝集價ノ呈シ來タリタルヲ見ルモ、一般症狀ノ良否ハ、本實驗ニアリテハ見ル事能ハザリシモ、數名ノ者ニ於テハ、少シク自覺的症狀ノ輕快ヲ訴ヘタルモノアリタレドモ其ハ入所前ノ不合理ナル療法ニ對シ入所後規律正シキ生活及ビ對照療法ノ結果ニ基クモノトモ考ヘラル。

進テ第二回接種後一週ニ於ケル實驗ヲ觀察スルニ、第一回接種ニ依リ多少共陽性反應ヲ呈スルニ至リタル者ニアリテハ新ニ凝集素形成狀態ノ増加ヲ認メ得ラル、ト共ニ、概シテ、カカル患者ニ於テハ一般症狀ノ比較的改善サル、コト著明ナル事實ヲ認メ得タリ。特ニ大東ニ於テハ、熱型ノ安定及ビ下向的ナルト共ニ食欲亢進ヲ認メ得タリ。サレド、天羽ニ於ケル如ク凝集價ノ上昇セシニカ、ワラズ、豫後比較的不良トナリタルモノ一例有リ。

第一回及ビ第二回ニ接種セシ「A〇」ハ、〇・〇一疔及ビ〇・〇二五疔ヲ用ヒタル事ヲ明記ス。

次デ「A〇」ヲ既ニ數回接種シタル患者ニシテ最後ノ接種ヨリ一ヶ月及ビ一ヶ月半ヲ經過セシモノ及ビソレニ新ニ一回接種後一週ニ於ケル患者ニ就キテ、余ノ實驗ヲ觀察スルニ、其ノ凝集價ノ上昇セル者ニ於テハ、百倍低キモノニ於テハ二十倍ニシテ反應ヲ現シ、此レヲ各人ノ症狀ニ就キテ見ルニ、經過良好ナルモノニ於テ凝集價高キヲ示シ、特ニ德田、山村、長谷中ニ於テハ全ク無熱ニシテ、著シク病狀ノ改善サレ居ルヲ見ル。サレド重症ニシテ又經過ノ良好ナラザル患者

第一表 A O 接種ニ於ケル血液凝集反應

姓名	性	期	血清稀釋量		A O 接種前	第一回接種後一週	第二回接種後一週	A O 接種後一ヶ月	第七回 一ヶ月半	A O 接種後一ヶ月	第七回 一ヶ月半	A O 接種後一ヶ月	第七回 一ヶ月半	A O 接種後一ヶ月	第七回 一ヶ月半	A O 接種後一ヶ月	第七回 一ヶ月半	A O 接種後一ヶ月	第七回 一ヶ月半	
			10	20																40
●	♂	III	-	+	++	±	+	-	±	±	±	±	+	+	+	+	+	+	+	+
●	♂	III	-	+	+	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
●	♀	III	-	±	±	±	±	-	±	±	±	±	±	±	±	±	±	±	±	±
●	♀	III	-	±	±	±	±	-	±	±	±	±	±	±	±	±	±	±	±	±
●	♂	III	-	+	+	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
●	♀	II	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
●	♀	II	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
●	♀	II	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
●	♀	I	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
●	♀	II	-	+	+	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
●	♀	III	-	+	+	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
●	♀	II	+	±	±	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

原著 谷口 肺結核患者ノ血液像並ニ血清凝集反應ニ及ホス A O 接種ノ影響ニ就テ

ニ於テハ比較的凝集價ノ上昇ヲ認メ得ザルナリ。サレド、■■■■ノミハ■■■■ニ比シ、凝集反應高キニカ、ワラズ、經過善良ナラザルモノモ有リタリ。サレド一般ニ凝集價ノ高キハ經過及ビ豫後宜シト謂フヲ得ベシ。次デ最終接種後一ヶ月半ニ於テ、新ニ一回接種セシ後一週ニ於ケル實見ヲ見ルニ多少ノ相異ハ認メタレドモ、特筆スベキ事ヲ認メザルモ、此所ニ、■■■■ノ經過從次不良ナルニ從ヒ血液凝集價從次降下シ、終ニ陰性トナリタル事ヲ特記ス。

血液像ニ就テ。

由來結核患者白血球ノ變化ニ就キテハ多クノ學者ハ、其ノ數ノ増加スル事ヲ認メ居レドモ、其ノ實驗中ニ於テ動搖甚シク、其ノ真相ヲ知ル事困難ナリ。モラチエフェイスキ氏ハ、第一期患者、四千乃至六千、第二期六千乃至一萬五千、第三期、五千乃至一萬二千、又混合感染ヲ有スルモノ三千五百乃至一萬三千五百ヲ算セリト云ヒ、又アッペ

ルバウム氏ハ、第一期六千五百、第二期八千乃至一萬、第三期ニ於テハ此レヨリ少シク減少セル數ヲ、又死前ニ於テハ八千乃至二萬ヲ算セリト云フ。リンベック及ビノイフェルト氏ハ第一期患者ニ變化無ク、第二期ニ於テ一萬二千乃至一萬五千、第三期及ビ死前ニ有リテ、一萬五千乃至二萬ヲ算セリ。又ドルダイ氏ハ之ニ反シテ増加セザル事ヲ主張セリ。サレド余ハ「A O」接種前ニ於ケル患者ノ血液像ヲ觀察シタル上、大體ニ於テ、モラチニフイスキー氏ノ成績ニ一致シ、症狀經過ノ比較的輕症ナル、大東、梶山、仲村ニ於テハ、四千八百乃至八千九百ノ間ニアリテ、又經過不良ニシテ死期ニ近キ天羽、田中ニ於テハ、其ノ數一萬二千乃至一萬七千ヲ示セリ。

次デ「A O」第一回及ビ第二回接種後ニ於ケル白血球數ヲ見ルニ經過良好ナル前述セシ三患者ニ於テハ、四千八百ヨリ一萬一千ヲ示シ、一般ニ白血球ノ増加ヲ示セリ。之ニ反シテ經過不良ナル田中ニアリテハ、アッペルバウム氏ノ報告セルガ如ク、數ノ減少ヲ示シタルヲモ見ル。

次ニ「A O」ヲ數回接種セル所謂舊患者ニ就キテ之ヲ見ルニ、之亦一般成績ニ於テ、モラチエフイスキー氏ノ成績ト略ボ同様ナルト共ニ大體ニ於テ少シク數ノ多キヲ示セリ。

新ニ「A O」數回接種セル患者ノ最終接種ヨリ一ヶ月半ニ於テ、一回ノ接種ヲナセシ後、一週ニ於ケル白血球數ノ推移ヲ見ルニ、之亦多少従前ニ比シ増加セル傾向ヲ見タリ。

此所ニ於テ、「A O」接種後ニ於ケル白血球數ノ變化ヲ考察スルニ、既ニ文獻ニ依リテモ知レルガ如ク、「ツベルクリン」注射療法ニ於テ總白血球數ノ減少ヲ呈シ來タル如ク、「A O」接種ニ於テモ比較的増加ヲ示スヲ見タリ。又接種ニ依リ白血球數ノ減少セシモノニ於テ經過ノ良好トナリ。病狀ノ改善サル、傾向ヲモ認メタリ。

#### 淋巴球

結核患者血液中淋巴球ニ關シテ由來多クノ研究ト議論ヲ存シ未ダ其ノ歸結スル所ヲ知ラズ。生理的淋巴球數ヲザリー氏ハ二二・〇%ヨリ二五・〇%ヲ算シ、トルダイ氏ハ二七・六%、加藤氏ハ一四・三%、草間氏ハ三三・六六%ヲ報告セリ。故ニ一般的平均數ハ二〇・〇%乃至三〇・〇%ニシテ、又結核患者ニ於テハツルバン氏ハ結核ノ初期及ビ良性ノ患者ニ於

テハ增多シ、悪性症ノ患者ニ於テハ減少スルモノ、如ク、ウアック氏ハ粟粒結核ニ著明ナル減少症ヲ起スモノナリト論ジ、又デカステルロフ氏及ビルビー氏モ結核ノ初期及ビ快癒期又ハ潜伏期ニ於テ淋巴球過多症ヲ起スモノナリト主張シ居レリ。此所ニ於テ余ノ「A〇」接種前ニ於ケル實驗ヲ見ルニ、二四・〇%ヨリ三六・〇%ヲ呈シ、比較的經過ノ良好ナルモノニ於テハ增多シ、豫後及ビ經過ノ不良ナル田中ニアリテハ二八・〇%ヲ示セリ。

次デ「A〇」第一回及ビ第二回接種後ニ於ケル成績ヲ見ルニ接種ニ伴ヒ從次經過良好トナリ、病狀ノ改善サル、モノニ於テハ益々淋巴球增多ヲ認メテ此ノ現象ノ著明ナル患者ニ於テハ接種前三六・〇%ナルニ比シ五八・〇%ニ増加セル者アリ。サレド豫後及ビ經過不良ナル田中ニ於テハ二八・〇%ヨリ二一・〇%ニ減少スルト共ニ粟粒結核ニ陥リテ死亡セリ。次ニ「A〇」ヲ數回接種セル、所謂舊患者ニシテ最終接種ヨリ一ヶ月及ビ一ヶ月半ニ於ケル實績ヲ見ルニ、最下三〇・〇%ヨリ最高六一・〇%ヲ呈シ、又殊ニ經過ノ良好ニシテ病狀ノ改善サル、無熱患者ニ於テ特ニ淋巴球ノ増加ヲ認メ、杉森、小川、筒井ノ如キ重症ニシテ經過及ビ豫後ノ不良ニ傾キツ、有ル者ニ於テハ最低三三・〇%ヲ示セリ。

又既ニ反復「A〇」ヲ接種シ、最終接種ヨリ一ヶ月半ヲ經タルノ後更ニ「A〇」ヲ接種シ、一週間ノ後ニ於テ検査セル成績ヲ見ルニ、多少ノ増減アレドモ特筆スベキ變化ヲ認メズ。即チ、既ニ反復「A〇」ヲ接種シ、奏效セルカ、若クハ無効ニ終ルカノ略ボ決定シ、血液像モ略ボ定マリタル歸趨ヲ辿ル者ニ在リテハ更ニ一回「A〇」ヲ接種スルトモ血液像ニ於テ特ニ著シキ變化ヲ起サズト謂フヲ得ベシ。

#### 中性多核白血球

中性多核白血球ニ關シテハ、トルダイ氏ハ四五・〇%乃至八一・〇%、ザリー氏ハ、七〇・〇%乃至六二・〇%ヲ以テ生理的數トナシ、其ノ平均數ハ大約六五・五%ニシテ、結核患者ニ關シテハ、ステッフエン氏ハ無熱患者ニ於テハ、四一・二%ヨリ、六一・七%、有熱患者ニアリテハ七三・六%ヲ算シ、永井氏ハ八〇・〇%ヨリ七〇・〇%、横井氏ハ男子六五・三%、女子六三・一七%ヲ算シ、アツプエルバウム氏ハ、第三期患者ニ於テハ八五・〇%ト報告ナセルガ如ク、其増加ヲ示ス者ハ常ニ重症患者タル事ヲ現シ、又豫後及ビ經過ノ善良ナラザル事ヲ表徴スルモノト認メラルル。

余ノ検査成績ニ於テモ「A〇」接種前ニ在リテハ經過不良ナルモノニ於テ其ノ増加ヲ認め、症狀ノ輕快ナル者ニ中性多核白血球ノ少ナキヲ示セリ。

サレド「A〇」第一回及ビ第二回接種ニヨリ、經過及ビ病狀ノ改善サル、傾向ノ者ニ於テハ、中性多核白血球ノ減少ヲ來シ、其ノ著明ナル者ニ於テハ七五・〇%ヨリ六五・〇%ニ減ジタリ。サレド經過及ビ豫後不良トナリタル田中ノミハ益々其ノ數ヲ増加シ、六五・〇%ヨリ次デ七三・〇%ヲ呈セリ。

次デ「A〇」ヲ既ニ數回接種セシ經過良好ナル患者ニ就キテ見ルニ、三二・〇%乃至四五・〇%ヲ現シ特ニ前述セシ三名ニ於テ、此ノ傾向ノ著明ナルヲ見タリ。

又重症患者ニシテ經過ニ差シタル變化ナキ者及ビ、少シク經過ノ不良ニ向フ傾向有ル者ニ於テモ、四二・〇%ヨリ、六三・〇%ヲ示セリ。サレド此等ノ患者ニ於テハ、少シク増加スル傾向有ルモ「A〇」接種ニ依リ一定度ノ減少スル者アルガ如シ。

數回「A〇」ヲ接種シテ經過良好ナル者、又比較的の不良ノ傾向ヲ示ス所謂舊患者ニ就キ最終接種ヨリ一ヶ月半ニ於テ、新ニ一回ノ接種ヲ行ヒ其ノ一週後ニ於ケル實驗ヲ見ルニ、多少ノ變化ハ經過良好ナル者ニ在リテハ見タルモ慢性ニシテ經過善良ナラザル者ハ増加ヲ示セリ。

#### 「エオジン」嗜好細胞

「エオジン」嗜好細胞ニ關シテハ、スライブツト氏ハ結核初期ニ於テ增多スル事有ルモ末期ニ於テ減少若クハ消失スルモノナリト論ジ、ポーランド氏ハ結核患者死期ニ於テハ消滅スル事ヲ報ジ、又ブルウメンフェルド氏ハ第三期ニ於テハ全ク證明セザル事アリト報告セリ。又ゲルドルト氏ハ、「ツベルクリン」療法進行ト共ニ、本細胞ノ增多スル事ヲ唱ヘタリ。此所ニ余ノ實驗ニ於テモ「A〇」接種前ニ豫後及ビ經過ノ不良ナル患者ニテハ其ノ細胞ノ少ナク、特ニ豫後不良ナル田中ニ於テ全ク消滅セルハ、ポーランド氏ノ報告セル所ト同一軌ニ出ヅ。

サレド「A〇」接種ニ依リ(第一回及ビ第二回)病狀ノ改善サル、傾向ノ者ニアリテハ、「エオジン」嗜好細胞ノ增多ヲ認め、

第二表 「A.O」接種前後ニ於ケル血液像推移

姓名	性	期	A.O 接種回数	白血球數	淋球%	單核及ビ移%	中多%	エ%
■	♂	III	A.O 接種前	4800	36	6	56	2
			第一回接種後一週	8900	56	5	42	1
			第二回接種後一週	9600	58	2	36	4
■	♂	III	A.O 接種前	17100	31	3	65	1
			第一回接種後一週	8700	34	2	60	0
			第二回接種後一週	10200	31	2	64	2
■	♀	III	A.O 接種前	8000	24	1	75	0
			第一回接種後一週	14000	34	0	65	1
			第二回接種後一週	8200	36	0	63	1
■	♂	III	A.O 接種前	12200	28	7	65	0
			第一回接種後一週	7600	21	6	73	0
			第二回接種後一週					
■	♀	III	A.O 接種前	8900	28	2	63	7
			第一回接種後一週	10000	34	3	63	0
			第二回接種後一週	10600	35	3	62	0
■	♀	I	第六回接種後一ヶ月	6800	63	2	32	13
			第六回接種後一月半	19100	57	4	22	17
			第七回接種後一週	10200	53	0	26	21
■	♀	II	第六回接種後一ヶ月	8800	49	6	34	11
			第六回接種後一月半	7800	49	1	37	13
			第七回接種後一週	13600	47	2	40	14
■	♀	II	第六回接種後一ヶ月	14200	38	6	45	11
			第六回接種後一月半	12800	50	4	33	13
			第七回接種後一週	15000	52	3	27	18
■	♀	II	第六回接種後一ヶ月	9200	45	4	43	8
			第六回接種後一月半	3200	62	0	28	10
			第七回接種後一週	7500	25	1	72	2
■	♀	II	第六回接種後一ヶ月	7600	31	3	64	2
			第六回接種後一月半	7700	51	3	40	6
			第七回接種後一週	10000	37	0	60	3
■	♀	III	第六回接種後一ヶ月	16100	33	2	63	2
			第六回接種後一月半	17800	28	0	66	4
			第七回接種後一週	11200				
■	♀	II	第六回接種後一ヶ月	11500	36	4	53	7
			第六回接種後一月半	5400	36	2	58	4
			第七回接種後一週		35	2	61	2

多ヲ認メラレ、其ノ現象ノ著明ナル者ニ於テハ、一一・〇%ヲ示セリ。

移行型及ビ大單核白血球

結核患者血液中移行型及ビ大單核白血球ニ關シテハ、アツペルバウム氏ハ、末期ニ於テ、「エオジン」嗜好細胞ニ代リテ

原著 谷口II肺結核患者ノ血液像並ニ血清凝集反應ニ及ボスA.O接種ノ影響ニ就テ

二・〇%ヨリ四・〇%ニ達セル者アリ。  
 次デ「A.O」數回接種セル者ニ於テハ七・〇%乃至一七・〇%ニ達シ、大體ニ於テ接種數少ナキ新患ニ比シ、著シキ増加ヲ認メ、又重症慢性ニシテ症狀ノ良好ナラザル者ニ於テハ降下シタリト雖モ同一患者ニ於テモ其經過善良ナル頃ニアリテハ、比較的高ク、少ナキモ一・〇%、多キモノハ七・〇%乃至八・〇%ヲ示セリ。  
 次ニ「A.O」ヲ數回接種シ、其ノ最終接種ヨリ一ヶ月半ヲ經テ新タニ一回ノ接種ヲナシ、其ノ一週後ニ於ケル成績ヲ、觀察スルニ之亦病狀ノ改善サル、傾向アルモノニ増



次第ニ増加スル傾向アリト唱へ居レドモ、余ノ實驗ニ於テ本關係ヲ見ルニ、「A O」接種前ニ在テハ重症ニ其ノ數少ナキヲ認メ、比較的症狀ノ善良ナル患者ニ於テ其ノ數ノ增多セル事アリタリ。又「A O」ヲ數回接種セル患者ニ在テモ、本現象ヲ認メ得ラル、ト共ニ、比較的重症ニシテ經過善良ナラザル患者ニ於テ、數ノ少ナキヲ見タリ。故ニ本實驗ヲ見ルニ移行型及ビ單核大白血球ハ經過並ビニ病狀ノ如何ヲ間ハズシテ消長アリ。結核患者經過觀察上大ナル意義無キモノ、如シ。サレド「A O」接種ニ依リテハ病狀如何ニ關係無ク、一般ニ減少スル傾向ハ確實ニ見受ケラレタリ。

#### 四、結 論

肺結核患者ノ重症、中等症、稀ニ輕症ナルモノニテ、血液凝集素ヲ證明セザル者ヲ選ビテ之ニ「A O」ヲ接種シ、其ノ前後ニ於テ血液像ヲ検査シ、血清凝集價ノ推移ヲ檢シテ次ノ成績ニ達シタリ。

一、「A O」接種ニヨル結核患者血清ノ凝集反應ハ接種後ノ經過良好ナル者ニ於テ凝集價ノ速ニ高マルヲ認メ、即チ血清凝集價ノ高低ハ「A O」接種ノ奏效無效ト略ボ並行スルモノト謂フ可シ。

二、白血球ノ消長ニ關シテハ、「A O」接種後奏效シテ經過良好ナル者ニ在テハ淋巴球及ビ、「エオジン」嗜好細胞共ニ増シ、中性多核白血球ハ之ニ反シテ減少若クハ消失シ、移行型及ビ大單核白血球ハ増減不定ナリ。又重症ニシテ經過及ビ豫後不良ナル者ニ在テハ「A O」接種ニヨリテ稀ニハ一過性ニ斯ル良徵ヲ呈スル事アルモ永續セズ若クハ既存ノ現象ヲ追フテ不良ノ轉歸ニ赴ク。

三、要スルニ「A O」接種ニヨリテ血液凝集反應ノ高マル場合ハ豫後良ナリト謂フベク、斯ル場合ニ在テハ彼ノ「ツベルクリン」、フリードマン製劑若クハ一般「プロテイン」療法等ニヨリテ經驗セラル、如ク、白血球像モ生理的狀態ニ近ヅキ來ルヲ見ル。

附記。「A O」ハ自働免疫ニ屬スルガ故ニ理論上ニ於テモ特ニ結核早期ニ於テ奏效著シカルベク、經驗上、慢性硬結型ヨリモ、新鮮滲出型ニ特ニ有效確實ナリトセラル。然ルニ余ガ這次ノ檢案ハ當ニ早期患者ヲ得ザリシノミナラズ、又新鮮

滲出型患者ヲモ得ル能ハズ。從ツテ本檢索ノ成績ヲ以テ直チニ「A O」接種ニヨル凝集反應ノ發現消長血液有形成分像ノ推移ノ全豹ヲ語ルモノトナス能ハザルヲ遺憾トス。但シ肺結核患者ニ對スル「A O」效價ノ片鱗ハ恐ラク此小實驗ニヨリテ捉ヘ得タリトスルニ幾カラント信ズ。

稿ヲ終ルニ臨ミ所長大繩博士ハ前所長有馬博士、此業績ヲ指導サレタル青山博士竝ニ所員諸兄ノ援助ニ對シ、滿腔ノ謝意ト敬意トヲ表ス。(大正十四年十二月稿)

#### 引用文獻

- 1) **W. Jülich**, Leucopenie und Tuberkulose, usw. D. M. W. 1925 No. 10. Brauer's Beiträge Bd. 8, 50, S. 303. 2) **Johannes Weichsel**, Systematische Blutuntersuchungen bei unspezifisch behandelten Lungentuberkulosefällen. Leipzig, 1924. 3) **A. Pappenheim**, Hämatologische Bestimmungenstafeln. 4) **H. K. Petersen**, Brauer's Beiträge I. Suppl.-Band. 5) **E. Appeltmann**, Berl. Kl. W. 1902, S. 7. 6) **龍士, 佐藤氏**, 近世臨床血液病學. 7) **横井氏**, 結核, 大正十四年, 第三卷, 第二號. 8) **永井氏**, 日新醫學, 大正十一年.